

## 英語を学習する意味が見いだせない学習者のための自律学習の開発方法（1）

－再履修生対象の **Writing class** での適用－

京都ノートルダム女子大学

東郷 多津

キーワード 意味を見いだせない学習者 自律学習 質的研究

**Keywords Disinterested Learners Autonomous Learning Qualitative Research**

高等教育段階での英語へのニーズが高まり、その必要性も多様化しているが、大学の教養教育としての英語の授業の役割が疑問視されている。一部の大学生は将来属したいと思う社会のニーズを予想して自己の能力開発に研鑽しているが、大多数の学生は基本的な知識は習得しているものの、将来自分の帰属したい社会が未確定のまま、中等教育の延長のような心構えで授業を受けている。さらに大学入試の多様化により、基本的な英語の知識を習得していない大学生も少なくない。近年、彼らの存在が大学教育で問題になっていて、入学前教育やリメディアル教育としてプログラム化されている。このような学生は概して授業に対するモチベーションが低いにもかかわらず、優秀な学生も出席しているなど、多様な学生が混在するクラスが多い。このような英語クラスで **Writing** の教育を行うことはきわめて困難である。しかしながら、われわれの大学ではこのような実態にあるが具体的な英語教育プログラムの改変をせず、従来通りの英語の授業を1, 2年次に提供し続けている。特にリベラルアーツ系の大学で教える教師として、英語を学習する意味を見いだせない学習者に対応することは避けて通れない課題である。そこで、多様な知識や動機を持つ他の学習者の中にあってもこのような学習者が自律学習できる授業を目指して、他大学の教員と共にプロジェクトチームを組織して教材開発を行っている。

英語を学習する意味が見いだせない学習者は、英語嫌い、基礎学力がない、コミュニケーション力が低い等の問題を抱えていることは明らかであるが、その問題を教師が的確に推察することはできない。学習者の意識を推察しながら授業の開発を行っているが、学習する意味を見出せない理由とその対応は個別的であるので、指導概念をモデル化し、データを質的研究の方法を適用し解釈する方法を採用している。本発表ではその枠組みを紹介する。

(790字)